

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水)6校時

場 所 山田町立山田中学校 2年1組教室

学 級 2年1組(男子16名、女子19名、計35名)

指導者 教諭 三上 潤也

- 1 単元名 説得力のある中学生意見文を書こう
- ・学習材 『哲学的思考のすすめ』 矢野茂樹 (「国語2」東京書籍)
 - ・補助学習材『鰹節－世界に誇る伝統食』 小泉武夫

2 単元について

(1) 教材観

本単元は中学校学習指導要領国語、国語科第2学年の目標「(3)目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身につけさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。」ために「C 読むこと」の指導事項「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」に力を入れ指導しようとするものである。

本学習材は哲学者の矢野茂樹氏が教科書に書き下ろした論説文である。「哲学的に考える」とは物事を根本的に考え抜こうとする態度であると主張し、その例として「恥ずかしい」という感情について論理的に考えを述べている。「恥ずかしいのはどのような時か」など身近な疑問を列挙し、共通点を集めて一般化することで結論を導く。そして結論の反例を探したり、多角的に再考したりすることで新たな結論を導き出している。「恥ずかしい」という感情について四度にわたって論証を行い、結論を導くために適切に根拠を用いて論を進め、段階的に自らの結論の弱点を克服していくことで説得力が高まっている。

結論を導くために何度も論証を繰り返し、論の弱点を補っていくことで説得力を高めている筆者の書きぶりに着目させたい。

(2) 生徒観

学習者はこれまで説明的な文章の学習において以下のような学習経験を積んでいる。

学年	学習材名(説明的文章)	学習内容
1	「オオカミを見る目」	・説明的文章の三部構成と段落の役割について考える。 ・構成や段落どうしの関係に注意して内容を捉える。
	「スズメは本当に減っているか。」	・事実と意見を読み分け、筆者の主張と根拠の関係性について考える。 ・図や表と文章を結び付けて内容を読みとる。
2	「鰹節」－世界に誇る伝統食	・文章の全体と部分との関係を捉えて内容を読みとる。

1年生では説明的な文章の構成や段落の役割について学習したり、意見と事実(根拠)の関係性や構成的テキストの役割について考えたりしてきた。そして2年生では文章の中で重要な部分を抽出して内容を簡潔に捉える学習を行った。いずれも読み手に分かりやすく伝える

ための筆者の工夫を読みとることができた。

しかし、実際に説明的な文章や自らの主張を展開する文章を書いてみると、根拠を立てて説明しているものの、根拠から結論が正しく導かれていない文章が多い。根拠を立てれば説得力が強まるのではなく、根拠と結論を正しく組み立てて論証していくことで読み手が納得する文章となることを理解している学習者が少ない。また、自分の導きたい結論に対して用いた根拠が妥当であるかどうか客観的に振り返る姿勢も見られない。

そこで本単元では、導きたい結論に対して根拠を用いて論証を繰り返したり、結論に対して根拠が妥当かどうか評価したりする学習を通して、説得力のある文章の構成や展開を捉える学習を行う。

(3) 研究主題との関わり

生徒指導の三機能については、①個で考える、②小グループで考える、③全体で考える、④個で結論付けるという学習過程を意図的に位置付けてきた。自分で考える時間を十分確保した上で、つまづきが見られる生徒に手立てを与えるなどして自己決定を促している。また小グループによる検討によって自己の考えがグループの考えにつながり、最終的には学級全体の結論に生かされる過程を経ることで自己存在感を高めている。また、話し合いのルールを徹底したり、発言しやすいような雰囲気作りを促したりすることで、共感的な人間関係の上に安心して学べる集団作りを目指してきた。

授業の終末では、①活動を振り返る、②学んだこと(内容)を振り返る、③次時や言語生活に向けて本時の学びがどのように生かされるか振り返る、という三つの観点で「学習の振り返り」を書かせている。本時に学んだことは何か、単元の最終目標に向けて自身の学習がどれくらい進んでいるか、そして学んだことがどう生かされていくのか自らの言葉で記述することで学びを蓄積できるようにしている。また、前時の振り返りの記述を起点として本時の学習内容に入っていくことで、学習のつながりを意識して自主的に学ぶ意欲を高めている。

3 単元の目標

文章を読み、分かりやすく伝えるための文章構成や説得力を強める論理の展開について自分の考えをまとめさせる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
構成や根拠と結論の関係などの展開に着目して文章を読もうとしている。	説得力の強い論理の展開について自分の考えをもって読んでいる。(読むこと・エ)	文や段落どうしの関係を表す語句の働きに注意して文章を読んでいる。

5 単元の指導計画・評価計画(本時5/8)

時	学習内容	目標	評価の観点					評価規準
			関	話	書	読	知	
1	1. 単元の見通しをもつ。 2. 教科書「哲学的思考のすすめ」を通読する。 3. 構成や展開について考える。	単元の見通しをもち、文章の構成や展開を学習することで読み手に分かりやすく説得力の強い意見文を書くことを理解させる。	○					○本文を読み、文章の構成や展開に工夫があるか考えて読もうとしている。
2	1. 本文の文章構成を表にまとめる。	既習事項を生かして本文を三部構成に分け、さらに段落の役割について考えさせる。				○	○	○段落の役割を考えながら文章を三部構成に分けて読んでいる。 ○接続語の役割を理解している
3	1. 本文の文章構成についてグループで検討して考えをもつ。	三部構成や「根拠—結論—反例—再考」という段落の役割について自分なりの考えをもたせる。				○		○本文の文章構成について自分の考えをもって読んでいる。
4	1. 「論証」について理解する。 2. 本文(本論①)の「論証」は説得力が強いかどうか考えをまとめる。	論証の組み立てについて理解し、本文の論証は説得力が強いかどうか自分の考えをもたせる。				○	○	○本文の論証が適切かどうか根拠と結論に着目して読み、文章の展開について自分の考えをもっている。
5 本時)	1. 本文(本論②、③、④)の論証は説得力が強いかどうか検討する。	根拠と結論の組み立てに着目して本文に説得力があるかどうか評価させ、文章の展開について自分の考えをもたせる。				○	○	○文をつなぐ語句の意味や役割を理解している。
6 ・ 7	1. 学習を生かして意見文を書く	学習した構成や展開を生かして分かりやすく説得力の強い意見文を書かせる。				○		○文章の構成や展開に注意して意見文を書いている。
8	1. 書いた意見文を読み合い評価する。	意見文の構成や展開について自分の考えをもたせる。				○		○意見文を読み、構成や展開について評価している。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

根拠と結論の組み立てに着目して本文に説得力があるかどうか評価させ、文章の展開について自分の考えをもたせる。

(2) 本時の指導構想

本時は前時で学習した「説得力の強い論証の組み立て方」を用いて、本文の本論の論証を評価する学習を行う。評価をする観点には「①根拠が正しいかどうか、②根拠から結論が正しく導かれているかどうか」の二点である。②を考える際は「反例を探す」「違う角度から考える」「再考する」という視点も踏まえながら筆者の結論が確かか考えたい。

「個一小グループ全体」と考えを広げたり深めたりしながら、最終的には筆者の論証は部分的には不十分であるが文章全体を通して考えると説得力が強い展開となっていることに気付かせたい。また筆者があえて反例のある論証を繰り返しているのは、論の弱点を補いながら読み手に寄り添って文章を展開することで説得力を高めるためであることに気付かせたい。

(3) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
根拠と結論関係や組み立てに着目して文章を読もうとしている。	根拠と結論の組み立てに着目して文章を読み、文章の展開について自分の考えをもっている。(読むこと・エ)	文や段落どうしの関係を表す語句(接続詞・助詞)のはたらきに注意して文章を読んでいる。

(4) 展開

段階	生徒の学習活動	学習内容	支援・指導の留意点
導入 (5分)	1 前時までの学習を振り返る。	〈前時までの振り返り〉	・本時の学習へつながる振り返りを発表させる。
	2 説得力が強い論証の組み立てを確認する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ①根拠が正しい。 ②根拠が結論に適切に導かれている。 </div>	
本文の論証は説得力があるか評価する			
展開 ① (10分)	3 本論②・③・④の論証に説得力があるかグループごとに発表する【存在・共感】。	〈論証の組み立て方〉	・既習事項を生かして評価したことを、各グループで調査して発表する。
	【グループ交流1】 ①テーマ：本論②・③・④それぞれの論証は説得力が高いかどうか。 ②方法：4人グループ ③進行：(1)前時で考えたことを確認する。 (2)調査員は他グループへ訪問する。報告者は他のグループに自分たちの考えたことを報告する。 (3)訪問者は受けた報告を自分のグループに戻って共有する。 ④帰着点：本論②・③・④全ての論証について考えをもつ。 ⑤時間：調査(3分) 結論づけ(3分) 発表		

展開② (25分)	4 グループ交流1の結果を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本論②・③の論証は説得力がない。 理由：反例がたくさんあるから。根拠に穴があるから。 ・本論④の論証は説得力が強い。 理由：反例が見つからないから。 <li style="padding-left: 20px;">②・③で考えたことも踏まえているから。 <li style="padding-left: 20px;">②・③で足りないところを補っているから。 	
	5 本論全体について考える【共感】。		
展開③ (10分)	<p>【グループ交流2】</p> <p>①テーマ：本論②～⑤全体を通しての論証は説得力が強いかどうか。</p> <p>②方法：一人で評価した後、4人グループ</p> <p>③進行：(1)一人で評価をする。</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)グループで「筆者はなぜあえて弱点のある論証を繰り返しているのか」結論づける。</p> <p>④帰着点：本論②～⑤全体の論証は説得力が強いかどうか結論を出す。</p> <p>⑤時間：ひとりで(4分) グループで(5分) 発表</p>		
	<p>まとめ 本論の論証は、一つ一つの論証には反例があったり穴があったりしていて説得力が高いとは言えない。しかし、あえて弱点がある論証を何度も繰り返すことで弱点が補われ説得力が高まっていて、本論全体を通して考えると読み手が納得できる内容と言える。</p>		
終末 (10分)	6 本文の論証に説得力があるかどうか考えをまとめる。	○一つ一つの論証は説得力が弱くても、論証の弱点(穴)を埋める論証を繰り返すことで説得力が強まる。	①本時の活動 ②学んだこと(内容) ③今後の学びの活用 の三つの観点で振り返りを書かせる。
	<p>【「振り返り」文例】</p> <p>今日は本文の論証に説得力があるかどうかグループで話し合いをしました。本論②・③の論証は根拠が適切でなく、反例も多いので説得力がありませんでした。しかし、②・③・④そして⑤と論証を繰り返していくことで、説得力が高まっていました。結果として文章全体では本文の論証は説得力が強かったです。それは筆者があえて弱点がある論証を繰り返すことで弱点が補われているからでした。私が意見文を書くときも、論証を繰り返して読み手に納得してもらえるような文章を書きたいです。</p>		

【決定】：自己決定の場を与える手立て 【存在】：自己存在感を与える手立て 【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て